

授業概要

この『政治学』においては、我々の生活を直接・間接に取り巻く「政治」に対する「政治学」的な視点を養うことを目的としている。鳥瞰的な物事の捉え方を学び、またその分析枠組みを提供するのが「政治学」という学問の目的の一つである。

講義の具体的な内容は以下の通りであるが、今年度においては現代の我々がある意味自明視している「代表制民主主義」が機能不全を起こしつつあることを観察していく。その上で、そのような状況に対してどのような処方箋が考えられているのか、またその対策の問題点といったことを検討していく。

さらにより具体的な政治上の問題として医療や年金といった社会保障システムと財政の問題を検討していく。世の中の基本的なしくみ（あるいは人々の考え方）を理解してもらうことを目標とし、そして、そうした営みが「政治」とは何を目指すべきものなのか、といったより大きな課題を考える契機になれば、と考えている。

授業計画

第 1 回	講義の概略
第 2 回	民主主義論(1) ～ 現行OSとしての代表制民主主義(選挙制度を中心として)
第 3 回	政治過程論(1) ～ 政治過程と政治参加
第 4 回	政治過程論(2) ～ アクターとその影響力行使の手法
第 5 回	民主主義論(2) ～ 参加民主主義・・・・・熟議民主主義・闘技民主主義
第 6 回	民主主義論(3) ～ 新たな民主主義の模索・・・・・QV・液体民主主義・くじ引き民主主義など
第 7 回	国民国家主体(1) ～ 国際政治とグローバル政治
第 8 回	国民国家主体(2) ～ 国民国家の生成・発展プロセス
第 9 回	イデオロギー(1) ～ リベラリズム、ニューリベラリズム、ネオリベラリズム
第 10 回	イデオロギー(2) ～ 再分配政策とリバタリアニズム
第 11 回	福祉国家論(1) ～ 日本の社会保障制度
第 12 回	福祉国家論(2) ～ 福祉国家と財政、グローバリゼーション
第 13 回	福祉ガバナンス ～ ウェルフェア、ワークフェア、ベーシック・インカム構想
第 14 回	国際安全保障システム
第 15 回	非国家主体の役割
第 16 回	筆記試験

到達目標

昨今、機能不全を起こしつつあるとされる「民主主義」について、さまざまな捉え方・考え方が存在することを把握し、また思想的な対立構造の理解および「政治過程論」を中心とする現代政治学の基本的分析枠組みの習得を到達目標としています。また、我々が日常生活を送る上で密接に関連してくる社会保障システムの基本的構図を学び、「政治」というものに我々が囲まれて生活していることを改めて認識してもらうことを目標としています。

履修上の注意

レポートの提出規定などを伝達するので、第一回の授業には必ず出席して下さい。(やむを得ない場合は第二回時に初回時の欠席理由を告げること。)

定期的に「小テスト」を実施します。それまでの内容を復習・理解しているかを問う内容なのでしっかりノートを確認しながら復習していくようにしてください。

また、一度たりとも欠席はしないという覚悟の上で履修登録を行なって下さい。病気・就職活動等による欠席も無条件での出席扱いとはしません。レポートの課題を出しますので、それが提出されてはじめて出席扱いとなります。

予習・復習

各授業前の予習は必要ありませんが、講義開始前までに中学校時代の「公民」の教科書、あるいは高校時代に「政治・経済」を履修していればその教科書を取り出してもう一度復習しておけば、格段に授業の内容が頭に入りやすくなるはずです。

評価方法

上記の「小テスト」・学期末の試験の点数、ならびに授業態度で総合評価します。

テキスト

「教科書」としては特に指定しませんが、参考文献等は授業中に伝達します。それらの中からレポートを課す予定なので、その意味でも授業には毎回出席するようにしてください。